

男鹿市国民健康保険データヘルス計画（第2期）の概要

基本的事項

策定の目的

被保険者の健康保持増進に努めるため、健康・医療情報を活用しPDCAサイクルにより保健事業を実施します。

計画期間

第2期の計画期間は平成30年度から35年度までの6年間とします。

計画の評価と見直し

中間年度である平成32年度と最終年度である平成35年度に評価し必要に応じて見直します。庁内検討会および外部有識者により評価します。

男鹿市の現状

人口データ

人口減少と高齢化が進み、高齢者のみの世帯が増加しています。

健診データ

働き盛り世代の男性は、受診率が低く、メタボ該当者が多く、生活習慣改善の必要性が高い状況です。高血圧症および脂質異常症の有所見者が多く、体重が増加した人や運動習慣のない人の割合が県や国より多いです。

医療データ

1人当たり医療費は、県や国より高く、脳血管疾患、心疾患、脂質異常症の入院1件あたり医療費が増加しています。働き盛り世代で生活習慣病の罹患者が増加しています。

介護保険データ

要介護認定率や1件当たりの介護給付費は県や国より高く、増加しています。高血圧症、心臓病、筋・骨にかかる疾病は、要介護者の半数以上の人が罹患しています。

健康課題の抽出・明確化

がん、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの医療費が多く、高血圧症、脂質異常症の被保険者数や、医療費が増加しています。

働き盛りの世代で特定健康診査実施率が低いので、自分の健康に関心を持ってもらう取組が必要です。

BMI、高血圧、脂質異常で基準を超える者が多く、運動習慣のない者が多い状況で、自ら健康を管理する意識づけが必要です。

目的・目標の設定

目的

がん、糖尿病、高血圧症、脂質異常症の罹患患者数を減少させ、医療費を抑制します。

長期的目標

平成35年度までに、特定健康診査受診率60%、保健指導の実施率60%、メタボ該当者および予備群の割合を男性26.7%、女性8.4%とします。

短期的目標

個別の保健事業において、それぞれ目標を設定します。

目的・目標達成のための主な保健事業

特定健康診査事業

健診結果から、個人に対し生活習慣病の発症予防・重症化予防の情報を提供します。

未受診者対策事業

自分の健康を管理する重要性から、健診受診を勧奨し、受診しやすい環境を整備します。

特定保健指導事業

健診結果から生活習慣病発症リスクの高い人を選別し、予防・重症化予防を指導します。

健康相談健康教育

健康意識向上のため、情報を広く提供し、疾病リスクの高い人に対して個別に指導します。